

★PATA 日本支部、設立 55 周年レセプション開催 ～世界のネットワーク通じ訪日インバウンド貢献～

PATA(太平洋アジア観光協会)日本支部は2月16日、東京・大手町のパレスホテル東京で、日本支部設立55周年レセプションを開催し、観光庁、日本政府観光局(JNTO)から来賓が出席するとともに、多くの会員、OBが参集し、日本支部設立55周年を盛大に祝った。

吉村久夫日本支部会長(JTB グローバルマーケティング&トラベル取締役)は冒頭の挨拶で、「PATAは太平洋アジア地区の発展のためにインバウンド、アウトバウンド促進のために活動してきた。日本支部は1962年に32会員で設立。

設立当初の事業は訪日インバウンド振興、87年に運輸省が海外旅行テニミリオン計画をスタートし、その頃から軸足をアウトバウンドに移して展開、2003年のVJCビジット・ジャパン・キャンペーンのスタートとともに、再び軸足を訪日インバウンドに移し、現在は9割以上の活動をインバウンド促進に充当している」と現状を説明した。

この間、日本支部設立前の1956年、73年、87年、99年の4回、PATA本部の総会を日本で開催。中でも、87年の大阪大会に1500名、99年の名古屋大会に1200名の内外観光関係者が参集し、ツーリズム産業界の一大イベントを開催した。

吉村会長は「55年の歩みの中で、PATA日本支部は様々な活動を展開。一時は会員が200名を超えたが、現在は55名で、旅行・ホテル・航空・運輸などの観光関係団体・企業に会員になってもらっている」と述べた。

訪日インバウンドが成長する中で、「PATA日本支部は、最近注目される欧米マーケットに広くネットワークを持ち、アジア太平洋地区を中心に世界各国の支部と情報交換しながら、訪日インバウンドに向けて貢献したい。PATAは世界に43支部あり、毎年、一堂に会して総会、トラベルマートを開催、マーケティング、人材教育に力を入れて活動している。日本の組織のみならず世界のネットワークと連携できる強みを発揮したい」と今後の方向性を語った。

来賓として招かれた観光庁の田中由紀国際観光課長は、「PATA設立が1952年、日本支部が62年ということで、戦後インバウンドの創世記とともにPATAは立ち上がった。訪日客数をみると、1952年7万2000人、62年は27万8000人。それが2016年は2403.9万人。この55年間で実に86倍に増加した。インバウンドがここ数年急激に伸びたのは、長年のご努力の賜物。また、訪日旅行消費額も昨年は3兆7500億円を上げ、自動車、化学製品に続いて第3位と日本を代表する一大産業になってきた。『明日の日本を支える観光ビジョン』では、訪日2000万人を4000万人、その先に6000万人を見据え。官民連携して観光産業を飛躍させて観光先進国を実現、ラグビーW杯、東京五輪パラリンピックの2大イベントを含めて世界に日本を力強くアピールしたい」と述べた。

乾杯は、日本政府観光局の吉田晶子理事が務めた。「近年の観光、とりわけインバウンドはめざましい動きはあるが、長年観光に携わった皆様のご努力の成果の賜物」と述べ、PATA日本支部の発展を願って乾杯した。

PATA 日本支部では、設立 55 周年に合わせて 1962 年の設立から 55 年継続会員企業・団体を表彰した。表彰を受けたのは、JTB(入会時日本交通公社)、KNT-CT ホールディングス(同近畿日本ツーリスト)、東武トップツアーズ(同東急観光)、帝国ホテル、富士屋ホテル、ロイヤルホテル、日本ホテル協会の 5 社・1 団体。



PATA 日本支部設立 55 周年レセプションで主催者を代表して挨拶する吉村久夫同支部会長



PATA 日本支部 55 年継続会員表彰を受ける 5 社・1 団体の代表者



本支部設立 55 周年レセプションで一堂に会した会員・OB 各氏